

愛媛果研ニュース

No.39 令和3年9月



玉津柑橘倶楽部の根域制限実証園

新型コロナウイルスの世界的感染拡大のため、開会を1年延期し無観客で開催された東京2020オリンピック・パラリンピックが終わりました。異例づくめの困難な状況下において全力を尽くされたすべての選手、スタッフ、関係者に心から敬意を表したいと思います。

さて、県では今年3月に、果樹農業振興計画を策定し、今後10年間で「平成30年7月豪雨災害からの復興」、「未来型果樹園を核とした果樹産地の強化」、「オリジナル品種の拡大等による儲かる果樹農業の推進」、「多様な担い手の確保と次世代への継承」等を重点的に実施することを打ち出しました。特に、「オリジナル品種の拡大等による儲かる果樹農業の推進」では、愛媛果試第48号（紅プリンセス）等の導入促進とともに、温州みかん等主力かんきつの生産力強化を掲げ、園地の若返りや適切な肥培管理による単収向上、マルチ栽培等による高品質化を推進することとしております。

嬉しいことに、ここ10年で愛媛果試第28号（紅まどonna）や甘平などの生産量が拡大し、ブランド品として認知されました。一方、温州みかんやいよかん、ぽんかんなどで樹齢の割に葉数の少ない園が散見され、園地の基礎体力が徐々に低下しているのではないかと懸念されます。個々の経営に合わせ、今後も新品种の導入を積極的に進めるとともに、基本に立ち返り主力かんきつの生産力を強化することが儲かる果樹農業への近道であると確信しています。

今回は、かんきつで、①「根域制限栽培園」における早期成園化実証、②豪雨災害園土壌の化学性と土づくり、③ドローンによる防除の実用化に向けた取り組み（パートⅡ）について取り上げました。県内で初めて導入された「根域制限栽培」の技術実証、豪雨災害園の実態を科学的に把握した上での土づくり、前号に続き現場からの要望の強いドローン防除の取り組みについてご紹介しますので、ご一読のうえ参考にいただければ幸いです。

果樹研究センター長 井上久雄